

「只見 移住物語」

二地域居住者

【移住者のご紹介】

- ・お名前：濱口 ^{よしひろ}喜博様 (69 歳)
- ・ご家族：^{とくえ}徳江様 (妻 65 歳)
長男 (独立 40 歳)、長女 (独立 37 歳)
それぞれが独立を保った 3 世帯同居家族
- ・いつ/どこへ：平成元年 (1989 年) から只見町へ通い通い始め、平成 4 年 (1992 年) に
ログハウスを^{ながはまさわ}長浜沢に建設、平成 8 年 (1996 年) に^{からさわ}柄沢の現住居へ移動。
- ・どこから：横浜市内
- ・いましていること：自然の摂理に従った生活、自然観察、家の周りの整備や、庭作り。
- ・まえにしていたこと：NTT (システム プログラマー エンジニア・システム オペレーター
・営業など)



ご自宅の居間にて 濱口ご夫妻

【始まり】

横浜の自宅で、たまたま只見町を紹介している TV 番組を観ました。「たもかく」の代表者吉津耕一さんが田舎暮らしの楽しさを紹介する番組でした。それを観て興味を持ち、1 週間後に只見町を訪れました。それが 30 年前、平成元年の前半だったと思います。(喜博様)

話しを聞きに行ったのが始まりでした。(徳江様)

私は雪国育ちではなく、横浜で 3 代目 横浜っ子なのですが、雪が大好きです。日常のストレスから離れ、自然の中で穏やかな時間を過ごしたいと思っていました。雪が降り、自然が豊かなところという理由で、ここを選びました。(喜博様)

自然にあこがれ、豊かな自然の中にある土地を探していたので興味を持ちました。しかし、この話は原野商法ではないのか、信頼できる場所なのかを確認したかったのです。こうして平成元年(1989)に、只見町との縁が出来ました。(喜博様)

【準備】

移住へ向けた準備は「たもかく」吉津耕一さんのアドバイス「四季を体験することが良い」から始まりました。(徳江様)

「豪雪地帯」と言われていましたので、雪の状況を確認する事にしました。平成元年(1989年)から旧青少年旅行村いこいの森キャンプ場(現 奥会津ただみの森キャンプ場)へ4年間 通いました。(喜博様)

冬は、地元の民宿に泊まりました。(徳江様)

町中にある「ふる里」という名前の民宿です。お正月も一家そろって民宿で過ごしました。雪祭りにも来ました。四季折々の只見を4年間 経験して長浜沢に最初の家を建てることになりました。長浜沢の土地は「たもかく」の吉津耕一さんに何方所か候補地を案内してもらい決めました。(喜博様)

この間に、土地の購入資金や建物の建設費の準備も進めました。(徳江様)

資金としては、サラリーマンのうちに借金しても、(仕事をしているうちに)返せばいいのではないかと考えたのです。サラリーマンでも建てられるログハウスという資金計画を基に最初のログハウスを建てました。当時 長浜沢を少し上るだけで沢蟹が、それはもう沢山いました。冬は、野兎が家の近くまで来て、沢にホテルもいて家の網戸に飛んできて光っていたことがありました。本当に自然の豊かなところですよ。(喜博様)

平成4年(1992年-喜博様41歳)に長浜沢にログハウスを建てましたが、平成7年(1995年)に、夫が脳出血を発症してしまいました。それまで屋根から落ちた雪の処理や家の周りの除雪作業は、夫がスノースコップでしていたのですが、その作業を軽減するために平成7年(1995年)から柄沢に、除雪がし易い家を建て始め、平成8年(1996年)に現在の家に移りました。夫の健康が戻ってからは除雪機も購入して除雪をしています。(徳江様)

平成10年(1998年-喜博様47歳)に、自らの健康と、家族のために早期退職を選びました。その後は、アルバイトをして生活しました。(喜博様)

【家族の絆】【二地域居住】【不安】

もちろん妻とはいつも一緒ですが、子供は親の身勝手と言うか、連れて来ていました。

(喜博様)

いつも家族4人で一緒に動いていました。小学生、中学生まではいつも家族一緒でしたね。

(徳江様)

少し話題がそれるかもしれませんが、今も家族一緒です。実は、現在 長男、長女とそれぞれが独立を保った状態で3世帯同居をしています。三世帯同居住宅です。3世帯同居になった原因と言うか、訳なのですが、3年前でしたか*平成30年(2018年)の台風24号で2階建ての屋根が吹き飛ばされ、住んでいた横浜の家が全壊してしまったのです。(喜博様)

*2018年10月1日 台風24号

東日本の太平洋側を中心に記録的な暴風となり、全国55地点で最大瞬間風速が観測史上最大を記録した台風。30日夜から1日未明にかけ太平洋側で相次いで記録的短時間大雨情報が発表された。

私の家は国道1号を見下ろす崖上部 際だったので、下から吹き上がる強風で屋根がそっくり、本当に完全に飛ばされました。台風が通過する夜半「ドーン」という音が聞こえました。1階で寝ていたので、その時は何が起きたのか判りませんでした。翌朝 様子を見るために2階に上がっていくと、なんと階段の途中から「空」が見えました。(喜博様)

竜巻のような感じで吹き飛ばされました。(徳江様)

その家には母と私たち夫婦の3人が暮らしていました。新しく家を建てるとなれば経済的にも大変ですし、私は退職していましたので、これからのことを相談するために家族会議を開きました。話が進むうちに長男夫婦、長女夫婦から「みんなで協力して一緒に住もうよ」と提案があって、三世帯同居住宅で一緒に住む結論になりました。ということで一緒に暮らしています。(喜博様)

いまは子供も大きくなり独立して夫婦二人で来られるようになりましたが、子供が中学生や高校生の時は、子供だけ残して行くことを心配しながら、行き来することもありました。夫が退職してからは、こちらへ来られる機会、期間も増えましたので、夫の気持ちが分かるだけに「私も一緒に行ってあげたい」と思う一方、横浜に子供を残す事に不安と感ずることがありました。

やはり食事の面で、子供に苦勞を掛けたのではないかと思います。作り置きした料理を冷蔵庫に保管するとか、冷凍するといった工夫もしました。でも中学や高校の頃は育ちざかりなので、それだけでは足らなかったと思います。買って食べていたこともあったかと思ひます。

男の子は高校生にもなれば、親へ相談するとことは少なくなると思ひますが、勉強のこともそうですし、友達との関係もそうでしょう、色々と思ひ事はあつたと思ひます。親がそばにいれば何か支える事も出来たかもしれません。あるいは、ただ愚痴や文句を親にぶつけるだけでも、何か助けになったのかと思ひます。そのはけ口というか、解決の糸口を見つける過程で苦勞させてしまった気がします。(徳江様)

もともと私は車が好きなので、ほぼ 100% 私は車で来ていました。往復で 700km 位あります。通常ルートは横浜から羽田線に乗り、東京首都高速に入り、向島線、川口線で浦和に出て、その後東北自動車道を走り、那須塩原で降りて、一般道を走ります。普段ですと早くて 5 時間かかります。冬になると 6 時間半ほどかかりますか、私が一人で来ることもありました。(喜博様)

夫が先に来て、2 週間くらい一人で過ごし、私が途中電車で来るとか、それで帰りは一緒に(車で)帰るとか、色々なやり方をしました。(徳江様)

田島まで私が迎えに行くとか、バスで来てもらうとかね。(喜博様)

二地域居住を始めたことで子供たちへは何かしら影響はあつたと思ひますが、子供たちは良く理解してくれて、いつも「行っていいよ」って言って送り出してくれました。私たちは、子供達が応援してくれたこと、また彼らがしっかり成長したことに感謝しています。
(徳江様)

環境とか、インフラで不安に感じたことは、やはり近くに医療機関があるかどうか、それと交通状況でした。横浜から来るとなれば、2 通り位のルートがないと非常時には困るので調べました。町には朝日診療所があり、大きい病院なら田島に県立 南会津病院がありました。当時は会津バスの路線バスも運行してましたので、何とかなると思ひました。

あと鉄道なら新幹線と只見線でも来られるし、東武線なら会津田島に来て、バスで来られることを確認しました。（喜博様）

【現在】

最近 直ぐ上にお住いの大宮さんとお友達になり「只見の自然に学ぶ会」へ誘って頂き入会しました。私たちは只見に通っている年数は多いのですが、夫婦二人で行動していました。二人で楽しく動いていましたが、会の趣旨にある只見の自然を良くしようという考えまでには至っていませんでした。会に入ると色々と催し物があって、参加出来る時は参加させていただいています。楽しいですね。お正月や季節の飲み会では、私はお酒を飲まないのですが、参加するように心掛けています。飲み会に出ることで、知り合いが増え、お付き合いが広がります。

おしらせばんは頂いていません。でも防災無線を入れて頂きました。二地域居住者には入れてもらえるか解らなかったのですが「クマが出た」とか、「災害時の避難指示」等の放送が流れても、窓を開けて聞き耳を立てるのですが、反響して良く聞こえなかったのです。命に関わる問題なので、役場に出向きお願いしたところ、設置してもらえることになりました。とても感謝しています。（喜博様）

【変化】

NTT を早期退職した理由は病気です。過労とストレスの蓄積が原因だと思います。NTT でシステムプログラマーエンジニアをしているときの睡眠時間はほぼ 4 時間でした。短い睡眠時間の中でも、頭の中ではプログラムのことを考えていて、2 時間位経つと目が覚め、頭に浮かんだプログラムを枕元のメモに書き込み、高ぶった気持ちを抑えて眠ろうとする努力の繰り返しでした。

就業開始前、早朝出勤してプログラムテストを行い、バグ（プログラム上の欠陥）の修正作業を行いました。当時 会社のメインコンピューターを営業時間中に修正作業で使うことが許されていなかったからです。こんな生活がまるまる 1 年 続き、脳出血を引き起こしてしまったのだと、私は思いました。（喜博様）

大きなストレスがかかっていたのだと思います。（徳江様）

こんなことがあって、こちらに来てなにか仕事をしようとは全く考えませんでした。ストレスが無くなり、精神的にとっても安定しました。性格は穏和になったと思います。会社に勤めているときは 1 日一言、二言くらいしかしゃべらないこともありました。「おはよう」とか、「失礼します」と言うくらいです。仕事中に人との会話はありませんでした。

こちらに来てからは人と良くしゃべるようになりました。夫婦の間の会話は、もともと仲が良いので、色々なことを話します。これは勤務していた時も、現在も変わらないですね。
(喜博様)

本当に自然が豊かなことです。山菜も自分の庭で取れます。夜空の星は素晴らしいです。
(喜博様)

ホタルもいいですね。虫は多いですけど。鳥も沢山いるのです。(徳江様)

たまに蛇も出てくるよ。マムシは怖いね。(喜博様)



ご自宅 お庭から撮影

【将来】

子どもたちは、私たちの生活を観て、自分たちもそうしたいとは思っているようですが、忙しくてなかなかそうはできないと考えているようです。「お父さん、お母さんのようにはできないだろう」と話しています。二人とも「私たちが自然の中で暮らすことはとても良いことだ」と励ましてくれます。近くに湯ら里など温泉も一杯あるし、まして「いまは新型コロナウイルス感染が拡大しているから、持病を持っているお父さんには、お母さんとこちら（只見）にいてくれた方が安心だね」と、いまの生活を後押ししてくれます。

(徳江様)

ここを子供たちへ残したいと思っています。以前に『お父さんが亡くなった後は、お母さんはここが気に入っているから使うと思うけど、二人とも亡くなった後はどうする?』と聞いたことがあります。長女は「二地域居住（というスタイル）で来てみたい」と言い、長男は「来たいけど、仕事の都合で休みが取れないから、無理かなあ」と。長男は「時間があれば遊びに来たい」と言うことでしょうか。（喜博様）

除雪のことを考えると、やはり冬に来ることは無理だろうと、だから地元で除雪をしてくれる人をお願いして家を維持するか、それとも来られないから処分するとか、考えるのではないですかね。（徳江様）

ここまで来るのにも時間がかかるし、仕事が終わってちょっと来られるという場所ではないからね。

孫（長女の息子）に「こっちに住んでみる?」って聞いたことがあるのですが、最初は「いいよ」って言っていました。でもいまは「こっちは住めないかも」って言い始めていますよ。（喜博様）

孫も雪も好きですし、イワナの里も好きなので、遊びに来たいのですが、中学生になると、なかなか来られませんよね。（徳江様）

若い時は働くことに、子育てに必死だから、なかなか時間は取れないのかもしれませんが。（喜博様）

【希望】

特に目標をもって何かをしようとか、したいということはありません。自然の中で、二人で穏やかに暮らして行きたい、それが唯一の希みです。30年前に只見に通い始めたときから「定住」や「二地域居住」といったライフスタイルを気にかけて事はなく、その時、その時に、私たちが出来る事、心地よいと感じたことを積み重ねてきた結果が、いまの生活、つまり「二地域居住」となりました。

今年 母は 90 歳になりました。ケア一施設で暮らしていますが、認知症の兆しもなく元気です。母のことを考えると、いまは「定住」ではなく「二地域居住」なのでしょうか。この先どのように変化して行くのか分かりませんが、都会の利便性と、豊かな自然の恩恵を共に受けられる、この生活にとっても満足しています。（喜博様）

これを「希望」に入れていいのかわかりませんが、メイン道路の除雪の話しが解決するといいですね。でもね、私、ここの縦（登り坂道）、横（自宅前の道）の道の除雪を楽しみにして、仕事（社会的 奉仕作業）のつもりで周りの人達と一緒にしています。（喜博様）

【不便】

公共交通が少なくなりました。昔は路線バス（会津バス）がありましたが、いまは「雪んこタクシー」と、只見～田島間の定期路線ワゴン「自然首都 只見号」だけになってしまいました。

あと病院の「科」が少ないですね。私たちには直接は関係ないことかもしれませんが、妊婦さんにとって南会津には産科がないので、会津若松へ行くらしいですね。車でも1時間半はかかるでしょう。大変だと思います。（喜博様）

【健康】

私は、持病を持っています。持病のデパートと言えるくらい沢山持っています。前は、朝1回に15錠ほどの薬を服用していました。飲まない薬がないというくらいです。横浜にいる時は毎日運動していましたが、こちらでは家の周りを熊のように歩き回っています。散歩に出るということではなく、この辺をうろうろしていることが運動になっています。昔は夫婦で自転車を持っていて、只見駅まで自転車で行きました。往復したこともあります。最近では、往来する車が怖いので自転車には乗っていません。（喜博様）

私は、特に運動はしていません。家の中だけで動いているだけです。（徳江様）

【アドバイス】

運転免許証がないと田舎では暮らせません。運転免許と車は田舎の必須条件ですね。お年を召した方でも、若い方でもこれは気につけないと田舎では暮らせません。今は若い方でも自動車免許を取らない方が増えていると聞きますが、ここでは動けませんので注意が必要だと思います。

車に関連する事ですが、通い始めた当初 冬に車を置くのに車庫がなくて困りました。車の置く場所がなかったのです。たまたま知り合いになった集落の方のところに車を置かせていただいていたいました。横浜から「行きます」って連絡すると、車を置く場所の除雪をしてくれて、車を置かせてもらっていました。ここでは自分の車庫を持たないと、冬を過ごす場合は大変だと思います。いまは、坂を下りたところ、小倉さんの後ろに車庫を作りました。（喜博様）

土地を購入するときに「豪雪」とは聞きましたが、日々の生活に関連して「車庫」のことや「除雪機が必要」といったより身近なアドバイスがあったら、より適切な準備ができたと思います。しかし、こちらに来ないと解らないことってあると思います。（喜博様）

近隣の方とのお付き合いは、集落の方へ挨拶をすとか、話をしたりするように心掛けました。よく田舎の方は警戒心が強いと聞きますが、初対面でも「お茶飲みにおいで」と誘

ってくれる方もいて、もちろん人にもよるのですが、そのような方とお知り合いになれて良かったと思います。ご夫婦で横浜の家にも泊まりに来てくれて、横浜を案内したりしたこともありました。(徳江様)

【生活】

買物はブイチェーンによく行きます。会津田島のヨークベニマルにも買い物に行きます。横浜からこちらに来るときにヨークベニマルに立ち寄り買い物をします。滞在期間が長くなる時は、足りないものをブイチェーンで購入しています。(徳江様)

【印象】

最初の印象は、なんといっても豊かな自然と雪、夜空の星ですか。強い印象が残っています。(喜博様)

自然が豊かなだけに虫の多さですか、蜂に4回刺され、アレルギー症状を起し朝日診療所へ行ったり、特にカメムシの多さには驚きます。いまは慣れましたが、1か月に1回来る感じだと、家の中はカメムシだらけで、すごいことになっています。家のいたるところに落ちていて悲鳴をあげていました。(徳江様)

蛇もちょくちょく出てきますが、カメムシは蛇よりも「曲者」ですね。(喜博様)

2020年8月26日 ご自宅にてインタビュー
インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博